

yamabuki i 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No. 3 1

平成19年7月2日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

要領のいい日本語変換

入力した文字(ひらがな)を「漢字」に変えるとき、スペースキーを使います。

しかし、スペースキーは、「漢字」にするキーではありません。これは、「日本語としてその場所でもっともふさわしい文字種」に変換するキーなのです。

日本語の文字種は、ひらがな・漢字・カタカナ・記号(カギ括弧、句読点)です。変換操作では、入力文字がこの中から適切だと思われた文字に変えられます。

ここで、「要領のいい」と書いているのは、

- ① キータッチの回数が少ない
- ② 変換操作で、字を選ぶことが少ない

という意味です。

まず、キータッチですが、これは、変換のタイミングが大きな意味を持ちます。

よく行われる変換場所が、漢字やカタカナからひらがなに変わる場所です。「要領のいい」では、「領」と「の」の間。しかし、これは、助詞を付けて変換する、つまり、「の」の後ろでスペースキーを押すことで、日本語変換システムが助詞を判断できるので、漢字に続く助詞を改めてEnterキーで確定する必要がなくなり、キータッチを減らすことができます。

更に、「要領の」より、「要領のいい」で変換した方が、より適切な漢字が出やすいです。これは、日本語変換システムが日本語を読んでいるためで、「要領の」では、「要領」なのか「容量」なのかがシステムにはわかりませんが、「要領のいい」の場合は、「容量」ではおかしいので、選択肢から外されます。これは、「**連文節変換**」と言われます。(文節のつながりで、適切な字を選ぶ)

日本語変換システムには、**MS-IME**(Word)と、**ATOK**(一太郎)とがありますが、どちらかというと、ATOKの方が、長い文章を一度に変換することは得意です。

そして、忘れてはならないのが、「**学習機能**」です。これは一度変換して確定する(Enterキー)と、次からは、その確定した文字が変換候補の上位に位置づけられる、という機能です。正しく変換できたとき、Enterキーで「学習」させていくことで、どんどん変換効率(目的の字が一度で表示される確率)が上がります。逆に、目的の字が表示されていないときに、「とりあえず」Enterキーで確定してから、Backspaceキーなどで戻って字を入力し直す、という作業を繰り返していると、システムが「間違った字」を「正しい」と言ったじゃないか、と言って何度もその字を出してきますから、だんだん使いにくい変換システムになってしまいます。

Enterキーは、パソコンに「教える」キーだということを、今一度確認してみましょう。